

## 保健物理・環境科学部会長の退任にあたって

小佐古敏荘(東京大学原子力研究総合センター)

今期を持って保健物理・環境科学部会長の退任いたしますので、雑感を述べさせていただきます。以前に、原子力学会企画委員会での議論で、原子力学会の研究発表会での区分が、「保健物理」となっていたものを、近畿大学の鶴田隆雄先生と私とで「保健物理・環境科学」分野としてほしいと提案し改定していただきました。これは時代の先駆け的であったのですが、なにぶんにも原子力学会でのこの区分での発表数が少なく、はらはらしながらの時代をすごしました。その後、平成 12 年に入ってから、企画委員をされていた京都大学原子炉実験所の福井正美先生から、「保健物理・環境科学部会」を作りませんかとの話をいただきました。原子力学会では部会制が浸透してきて、部会を持ちこれに所属しないと、なかなか活動も難しい情勢になってきていました。それはいいのですが、各所から「十分な人数が集まるの？」などなど様々な批判的な意見をいただきました。福井先生と私は、青木芳朗先生(当時原子力安全委員)などを訪問し部会設立の必要性のご説明をしたり、発起人を集めたりをしました。かくして、平成 12 年 2 月 25 日 78 名の発起人とともに「保健物理・環境科学部会」の部会立ち上げを致しました。第 1 期の部会長は福井先生のお勧めもあり小佐古が、副部会長は福井先生が、という体制を認めていただき、スタートいたしました。その後、平成 14 年度からの第 2 期には、小佐古部会長、内田滋夫副部会長(放射線医学総合研究所)の体制で臨みました。

第一回の部会総会は平成 12 年 3 月 30 日に行い、部会規約等を決めました。まず初めにすべき事は研究発表会を活性化すべきことで、特別講演や、企画セッション、他部会との合同企画など様々な方法を「駆使」しました。その結果もあり現在では、時として会場があふれることもあります。これらの中で思いつくものをあげても、平成 12 年秋の大会での、松平寛通先生の「ICRP の最近の活動」に始まり、「原子力防災と保物」、「加速器保物」、「環境モニタリングと保健物理」、「放射線障害防止法の改定」、などなど時の話題の魅力的なテーマを設定し、会場が満員になることも多くありました。

研究発表会以外にも学会活動の寄与度を高めるため、従前 1 名であった企画委員の配当定員を 2 名にさせていただきました。これは委員の交代時に 1 名ずつ交代し継続性を持たせるためにどうしても必要なものでした。また、編集委員も 2 名を 3 名に増員させていただきました。原子力学会の各部会においても、ロボット、情報など新しい分野、部会が提案され、委員の増員は苦労したところです。

これらレギュラーにある会合以外にも、保物小委員会、環境小委員会などの主導の下、各種の研究会、勉強会が開催されました。環境分野では京都大学原子炉実験所での研究会との合同開催なども行っております。最近では、原子力国際ワークショップと銘打って、韓国の申相云氏(KHNP)、台湾の謝牧謙氏(輔仁大学)に東アジア各国の原子力、放射線安全の状況を報告いただき、意見交換を進め国際性も出すようにしています。

来期は、内田部会長、飯田孝夫副部会長(名古屋大学)、本間俊充副部会長(日本原子力研究所)の 3 名の体制です。従前にも増して活発な活動を期待いたしますが、とりわけ若手の参加を促し、元気にやっていただきたいと思います。終わりに、部会立ち上げ、第 1 期活動で福井先生(京大)には大きな貢献をいただいたこと、1 2 期の事務局として飯本武志君(東大)、高橋知之君(京大)の努力をいただいたこと、同期の各運営委員の方々には大変お世話になりましたこと、これらを記して謝意を表したいと思います。

以上